

ビワ生育情報

第 9 報
千葉県農林水産部
令和 2 年 6 月号

6月1日現在の生育は3品種とも平年よりも早く、「楠」及び「大房」の収穫は5月下旬から始まっている。着果量は寒害の影響でやや少ないが、果実は大玉傾向である。

令和2年5月の気象

令和2年5月の半旬別の気象を表1に示した。平均気温は第1、3、4及び第6半旬は平年より高く推移した。月平均気温は18.9℃で、平年より1.1℃高く、前年より0.4℃高かった。

降水量は第4半旬は平年より多く、他は平年より少なかった。月合計は105mmで平年の60%、去年の67%であった。

日照時間は第1、2、3及び第6半旬は平年より多く、他は平年より少なかった。月合計は186時間で平年の105%、前年の79%であった。

表1 令和2年5月の気象(暖地園芸研究所)

半旬	平均気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	18.8	16.6	16.8	8	22	40	40	30	34
2	17.1	17.3	16.9	11	26	2	30	28	40
3	20.3	17.5	17.4	2	38	19	54	27	24
4	18.5	17.8	18.7	70	25	0	13	28	42
5	17.5	18.4	19.9	15	32	69	14	29	51
6	20.7	18.8	21.1	0	31	28	36	35	44
平均/計	18.9	17.8	18.5	105	174	158	186	177	235

7月の作業(果実の発育は次ページ)

7月に入り梅雨が明けると、本格的な夏を迎える。収穫後に弱っていた樹は勢いを取り戻し、夏枝の伸長が盛んになるが、根の伸びは鈍くなる。7月の作業は夏の乾燥期に向けて草刈り、敷き草、カミキリムシの防除がある。

草刈り

梅雨明け時期に園内の草刈りを行う。高温乾燥期に草を生やしておく、草に水分がとられ、土は乾燥状態になりやすい。土が乾燥すると花着きはよくなるが、過度の乾燥は樹を弱らせる。草刈りを行い、土の乾燥防止のために刈り草は樹冠下に敷く。

カミキリムシの防除

カミキリムシはリンゴ、イチジク、クワ、ビワなどを加害する枝幹害虫で、ビワに寄生するのはクワカミキリが多い。体長は4cm位、体は黒色地に暗黄色の短毛が密生する。幼虫は枝幹中に食入し、木質部を食べて育ち、枝の中心部を食い荒らすため、食害を受けた枝は折れやすく、甚だしい場合は枯死する。また、食入部の傷口からがんしゅ病が感染することがあるので、注意を要する。成虫は産卵のために、7～8月に現れるので、朝夕の活動の鈍いときに捕殺する。卵は見つけ次第つぶす。防除に際しては千葉県農作物病害虫雑草防除指針に従う。

果実の発育

6月1日現在のビワの果径を表2に示す。横径は「楠」が4.33cm、「大房」及び「田中」では3地区の平均がそれぞれ5.07cm、4.83cmで、「楠」は平年よりも小さく、「大房」及び「田中」は平年より大きかった。

縦径は「楠」が4.64cm、「大房」及び「田中」の平均値はそれぞれ5.43cm、5.39cmで、「楠」は平年よりも小さく、「大房」及び「田中」は平年より大きかった。

果形指数は「楠」が0.93、「大房」及び「田中」では3地区の平均がそれぞれ0.93、0.90で、「楠」及び「田中」は平年並み、「大房」は平年より縦長傾向であった。

着色程度は「楠」が3.8、「大房」及び「田中」は3地区の平均でそれぞれ3.6、2.9、着色の進みは3品種共に平年より早く、「楠」は完全着色であった。

暖地園芸研究所の早生品種の収穫開始は5月下旬からで、「楠」は5月25日、「大房」は5月29日であった。本年の開花始めは遅かったものの、開花終期は平年よりも早く、また、4月の平均気温は低温だったが5月の平均気温は平年よりも高かったこと等から、収穫期は3品種共に平年より早い傾向にある。

本年は平年に比べ、着花房率は高かったものの寒害の発生が多かったため、着果量は平年より少ないが、果実は大玉傾向である。病虫害では、クワゴマダラヒトリの発生及び果実の被害程度は平年よりやや多く、果樹カメムシ類の被害は現時点では少ない。以上のことから、最終的な収量は平年よりやや少ないと予想される。

表2 果実の発育（6月1日の果径）

品種	調査地	横 径(cm)			縦 径(cm)			果 径 指 数			果 色		
		本	年	平	年	前	年	本	年	平	年	前	年
楠	暖地園研	4.33	4.43	4.44	4.64	4.76	4.87	0.93	0.93	0.91	3.8	3.2	3.8
	青 木	4.86	4.97	5.23	5.18	5.12	5.21	0.94	0.97	1.00	3.8	3.1	4.0
大房	南 無 谷	5.15	5.03	5.42	5.62	5.21	5.72	0.92	0.97	0.95	3.2	3.2	4.0
	暖地園研	5.20	5.06	5.44	5.48	5.14	5.83	0.95	0.97	0.93	3.8	3.0	4.0
	平 均	5.07	5.00	5.36	5.43	5.16	5.59	0.93	0.97	0.96	3.6	3.1	4.0
	青 木	4.80	4.47	5.05	5.39	4.96	5.53	0.89	0.90	0.91	3.2	1.9	2.5
田中	南 無 谷	4.94	4.42	4.63	5.37	4.96	5.43	0.92	0.89	0.85	2.3	1.9	2.6
	暖地園研	4.75	4.54	4.84	5.41	5.00	5.55	0.88	0.91	0.87	3.4	1.9	2.8
	平 均	4.83	4.48	4.84	5.39	4.97	5.50	0.90	0.90	0.88	2.9	1.9	2.6

果形指数：横径／縦径

平年：平成2年～令和元年の30年間の平均。

南無谷は平成10年～令和元年の22年間の平均。

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所特産果樹研究室
電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>